

区分・種別	県指定有形文化財（工芸品）		
名 称	だいだん 大壇 1基		
所 在 地	松山市石手		
所 有 者	石手寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和40年4月2日		
解 説	大壇とは、密教道場の中心となる本壇のことをいう。この大壇は、総高31.4センチメートル、方130センチメートル、ヒノキ材で作られた箱形のものである。甲板は3枚板の^は矧ぎ合わせ、総体には錆下地に黒漆を塗っている。側面は、各々3区の^{かまち}框に^{こうざま}格狭間をつけ、この格狭間には縁に花形を飾り、そこだけ朱漆を塗り、なかに縦^{れんじ}連子をおき、その表面には^{ろくしょう}緑青の塗装をほどこしている。地覆、上框、束の縁の角を面取りにして朱漆を塗っている。 格狭間の^{くりがた}刳形は鎌倉時代特有のすぐれたものであり、本堂の^{しゅみだん}須弥壇の格狭間とその様式が一致しているので、鎌倉時代末期に製作されたものと思われる。		



大壇